

(議事要旨) サステナビリティ基準委員会の活動状況について

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の川西委員長より、SSBJ の活動状況について説明が行われた。これについて、主に次に関する質疑応答が行われた。

- SSBJ ハンドブックで示された見解の性格と、それと異なる見解がある場合の対応
- 国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）から公表された公開草案「温室効果ガス排出の開示に対する修正—IFRS S2 号の修正案」（以下「IFRS S2 号公開草案」という。）への対応と、今後の SSBJ 基準開発への影響
- ISSB 公開草案「『SASB スタンダード』の修正案」（以下「SASB スタンダード公開草案」という。）への対応
- 国際対応における二者間会合の状況

また、サステナビリティ基準諮問会議の委員より、次の意見が聞かれた。

(SSBJ 基準と ISSB 基準との整合性)

- SSBJ 基準が ISSB 基準と機能的に整合した結果をもたらすように設計されていることが SSBJ と ISSB の双方で確認され、それが公表されたことは意義深い成果であると考えられる。これにより、SSBJ 基準がグローバルの投資家が求める高品質な基準であることが示され、我が国の制度的な枠組みの信頼性の向上や日本企業のサステナビリティ情報の質的向上に資すると考えられる。

(SSBJ 基準に関する補足文書やハンドブックの公表)

- SSBJ から SSBJ 基準に関する補足文書やハンドブックが公表されたことを高く評価している。実務の積み上げがない分野でもあり、これから理解を進めようとする利用者に役立つ。また「有価証券報告書の作成要領（サステナビリティ関連財務開示編）」（以下「作成要領」という。）は開示の具体的なイメージが湧くため有益である。
- SSBJ 基準に関する補足文書やハンドブックが多く公表されていることは実務に役立つが、公表物が大量になると区別が難しくなるためタイトル等を工夫していただきたい。また作成要領は、金融審議会での議論など今後の動向を踏まえてさらに記載が充実されることを期待する。
- サステナビリティの担当者間でコミュニケーションの機会があったが、SSBJ 基準に関する補足文書やハンドブックは有用で読みやすいとの意見が聞かれていることをお伝えする。

(SSBJ 基準の周知、適用)

- サステナビリティの担当者の間のコミュニケーションでは、開示の義務化が近付く中で、特に人的資本の開示についてどのようにデータを収集するかについて戸惑いや悩みが聞かれている。関連する開示府令を金融庁が公表する際には、作成者の負担に配慮した対応を進めてもらいたい。また、実際に開示が始まると開示競争が過熱することも懸念されるので、実際の開示のモニタリングを進めてその結果が共有されることを期待している。
- 企業としては、公表された開示基準やガイダンスに従って、また、欧州の先行実務も参考にして開示をしっかりと進めていきたい。しかし、実務的には不明な点も多い。サステナビリティ情報は会計情報と異なり漠然としているところがあり、開示を支える体制構築も途上にある。最初はおおまかに進め、年を経るごとに精査していく形になればと考えている。
- クロスボーダーで情報を合算することの是非、意義については注目していきたいと考えている。
- SSBJ は、SSBJ 基準の周知に関して様々な取組みや関係団体の支援を行っているが、引き続き周知活動を進めてもらいたい。

(IFRS S2 号公開草案への意見発信、関連する SSBJ 基準の改正の検討)

- IFRS S2 公開草案では産業分類が1つのテーマであり、細か過ぎる世界産業分類基準(GICS)を用いることに懸念があり、SSBJ 事務局に伝えていた。こうした意見を斟酌して SSBJ が意見発信を行ったことに感謝する。また、SSBJ からのコメントでは「よく知られている産業分類システムの1つを選択する」とされていることに関連して、IFRS S2 号が最終化された後の SSBJ 基準への取り込みにあたって、どの産業分類がよいかは、関係者と様々なコミュニケーションを図ってもらいたい。
- 全国銀行協会では提案される GICS コードの使用に関してライセンス料の負担や企業間の不公平性の観点から反対し、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言の産業分類も参考になることをコメントした。この点、SSBJ の意見発信と大きな違いはないと理解している。SSBJ では、引き続き ISSB の動向をフォローして適時、適切に対応してもらいたい。また、ISSB は本テーマの最終化を 2025 年中に予定していると理解している。それを受けて SSBJ は SSBJ 基準改正の議論に入ると考えているが、GICS コードに関連する議論については関心を持っており、丁寧に議論を進めてもらいたい。

(SASB スタンドアード公開草案への意見発信)

- SASB スタンダード公開草案について、利用者は担当するセクターによって入手したい情報が様々であるので、SSBJ が意見発信するにあたって様々な利用者とコミュニケーションを図って進めて欲しいと考えている。
- 参考として次をお伝えする。SASB スタンダードについて、日本証券アナリスト協会では ISSB から依頼を受けて、今後、公開草案の公表が予定されている 3 つの産業（「農産物」、「食肉、家禽及び乳製品」及び「電気事業者及び発電事業者」）について現役のセクターアナリストにインタビューを実施して、改善点を収集している。インタビューでは多様な意見が寄せられていることも踏まえると、企業の実務担当者からも同様に多様な意見が出てくることが予想される。

以 上